

29愛防第74号  
平成30年1月11日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

### 発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第4号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

#### 平成29年度 病虫害発生予察注意報（第4号）

平成30年1月11日  
愛媛県

病虫害名 ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）

対象作物 イチゴ

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 12月の定点調査における寄生株率は18.73%と先月（19.27%）から横ばいで推移し、平年（4.45%）よりかなり高く、寄生葉率は過去10年間で最も高くなっている（図1）。
- (2) 現在の発生はナミハダニが主体であり、薬剤感受性の低下がみられている（表1）。
- (3) 気象予報（1月4日発表1ヶ月予報）では、気温、降水量ともに、ほぼ平年並とされているが、2週目からは晴れの日が多い見込みであることから、ハウス内の昇温や乾燥が予想され、発生にはやや助長的となる。

#### 4 防除上の注意

- (1) 有効な薬剤が少ないため、低密度時からの防除が重要であり、ほ場観察により早期発見、早期防除に努める（表1）。
- (2) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチやカブリダニ類等の天敵への影響を考慮する（表2）。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤（表3）を含め、系統の異なる薬剤によるローテーション使用に努め、薬剤散布後は防除効果の確認を行う。
- (4) ハダニ類は葉裏や葉縁等の薬液のかかりにくい場所に寄生することが多いため、散布ムラに注意し、丁寧に散布する。

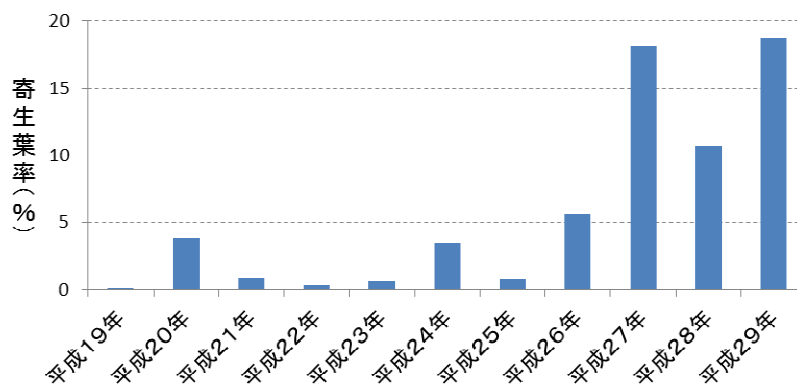


図1 イチゴ定点調査(12月)における寄生葉率

表1 イチゴに寄生するハダニ類の薬剤感受性検定結果  
(殺成虫効果)

薬剤名	補正死虫率(%)						
	新居浜市 (H29)	西条市 (H27)	今治市1 (H27)	今治市2 (H27)	東温市 (H27)	宇和島市1 (H27)	宇和島市2 (H27)
	ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	カンザワ	カンザワ
マイトコーネフロアブル	85.1	100	100	100	100	100	100
ダニサラバフロアブル	0	0	95.8	8.9	3.5	100	100
スターマイトフロアブル	0	-	97.4	0	11.0	100	100
カネマイトフロアブル	67.5	75.1	18.4	3.2	100	100	100
コロマイト水和剤	15.0	84.3	25.5	0	81.9	100	100
アフーム乳剤	38.3	-	83.4	0	100	100	100
ダブルフェースフロアブル	17.9	-	-	-	-	100	100

(殺卵効果)

薬剤名	補正死虫率(%)					
	新居浜市 (H29)	西条市 (H27)	今治市 (H27)	東温市 (H27)	宇和島市1 (H27)	宇和島市2 (H27)
	ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	カンザワ	カンザワ
マイトコーネフロアブル	34.0	20.3	0.9	41.8	49.0	34.5
ダニサラバフロアブル	20.0	45.1	59.6	0	83.2	69.3
スターマイトフロアブル	34.4	-	100	3.3	100	100
カネマイトフロアブル	63.7	89.8	60.5	74.2	77.7	84.4
コロマイト水和剤	16.6	59.0	43.8	17.8	51.2	53.6
ダブルフェースフロアブル	36.6	-	94.1	20.4	25.4	61.3

注)ナミ:ナミハダニ、カンザワ:カンザワハダニ

愛媛県農林水産研究所の試験結果。

表中の数値はハウス単位で採集したハダニの結果であり、各地域の感受性を反映しているものではありません。

表2 イチゴのハダニ類に対する防除薬剤

薬剤名	農薬分類 (IRAC)	希釈倍率	収穫前日数 /使用回数	ミツバチへの影響	天敵に対する影響			
					ミヤコカブリダニ		チリカブリダニ	
					卵	成虫	卵	成虫
コロマイト水和剤	6	2,000倍	前日/2回	1日	△(1)		△(-)	
スターマイトフロアブル	25A	2,000倍	前日/2回	1日	◎(-)	◎(-)	◎(-)	◎(-)
マイトコーネフロアブル	20D	1,000倍	前日/2回	1日	◎(-)	◎(-)	◎(-)	◎(-)
ダニサラバフロアブル	25A	1,000倍	前日/2回	1日	◎(-)		◎(-)	
パロックフロアブル	10B	2,000倍	前日/1回	乾けば影響なし	×(-)	◎(-)	×(10)	◎(-)
カネマイトフロアブル	20B	1,000倍	前日/1回	乾けば影響なし	◎(0)	◎(0)	◎(0)	◎(0)
アフーム乳剤	6	2,000倍	前日/2回	2日	×(-)	×(-)	×(-)	×(-)
ダブルフェースフロアブル	25A+21A	2,000倍	前日/1回	1日	-	-	-	-

注)天敵に対する影響は、農薬メーカー技術資料等から引用。

・( )内の数字は影響日数、(-)は影響日数が不明、◎は影響なし(死虫率<30%)、△は直接かかると影響あり(死虫率:50~70%)がある。×は影響が大きい(死虫率75%<)を示す。

・表中の影響の程度及び期間は目安であり、散布時の気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)により変化する。

表3 気門封鎖型農薬の使用法(定植期以降)

薬剤名	対象病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数	天敵類への影響
アカリタッチ乳剤	ハダニ類	1,000~3,000倍	収穫前日まで	-	天敵類への影響 ・虫体に散布液が接触すると死亡率は高まる。 ・ミヤコカブリダニよりもチリカブリダニの影響が大きい。 ・散布液の乾燥後(天敵放飼前の使用)では影響がほとんどない。
	うどんこ病	2,000倍			
エコピタ液剤	アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-	
	ハダニ類				
粘着くん液剤	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類	100倍	収穫前日まで	-	
ムシラップ	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-	
サフオイル乳剤	ハダニ類	300~500倍	収穫前日まで	-	
	チャノホコリダニ、コナジラミ類	300倍			
フーモン	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類	1,000倍	収穫前日まで	-	

使用上の注意

①散布液がハダニに直接かからないと効果がないため、ムラなく散布液が掛かるよう葉の表裏に丁寧に散布する。

②殺卵効果がなく(サフオイル乳剤を除く)、残効性がないため、高温時など増殖が旺盛な時期には、5~7日程度の間隔での連続2回散布や他剤とのローテーション散布を行う。

③夏期高温時など一般に葉害が生じやすい条件では使用を避ける。

④葉害が発生する恐れがあるため、初めて使用する作物、品種では試しがけを行う。

⑤展着剤の加用は必要ない。